

GPS 安全性要約書

この GPS 安全性要約書は、化学物質を製造する企業の社会的責務として、化学産業界のグローバル製品戦略（Global Product Strategy :GPS）に基づいて当社が製造する化学製品のリスク評価結果に関する情報の概要を一般社会に提供するものです。

この文書は、ヒトの健康や環境への影響あるいはリスク評価の詳細等の専門的な情報を提供するものではありません。また、安全データシート(SDS)、または化学品安全性報告書(REACH CSR)などのリスク評価書に代わる文書として作成されたものではありません。記載内容は現時点で入手できる法令、資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、いかなる保証をなすものではありません。

物質名 (SUBSTANCE NAME)

ジアセトンアルコール (4-hydroxy-4-methylpentan-2-one, CAS No. 123-42-2)

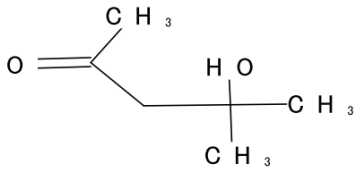
物質の概要 (GENERAL STATEMENT)

ジアセトンアルコールは、芳香臭の無色透明の液体である。合成樹脂塗料などに使用されている。

皮膚刺激、強い眼刺激、生殖能力または胎児への悪影響のおそれの疑い、臓器(肝臓、血液)の障害のおそれ、呼吸器への刺激のおそれ、眠気またはめまいのおそれがある。生分解しやすく、生物蓄積性は低いと考えられる。

製造時のサンプリングや移し変え作業等では適切な保護マスク、保護手袋の着用が推奨される。また、環境生物への影響を最小化するために、漏洩防止策を講じるとともに、定期的な監視や設備の保守点検が推奨される。

化学的特性 (CHEMICAL IDENTITY)

項目	内容
一般名	ジアセトンアルコール
商品名	ダイアセトンアルコール
化学名	Diacetone alcohol (IUPAC名: 4-hydroxy-4-methylpentan-2-one)
CAS番号	123-42-2
その他の番号	官報公示整理番号(化審法, 安衛法)(2)-587 EC番号 204-626-7
分子式	$C_6H_{12}O_2$
構造式	 <p>The chemical structure shows a five-carbon chain. The second carbon is part of a carbonyl group (C=O). The fourth carbon is bonded to a hydroxyl group (OH) and a methyl group (CH₃). The fifth carbon is also bonded to a methyl group (CH₃).</p>
その他の情報	特になし
出典、備考	三菱ケミカル(株)発行のSDS 3項 参照

使用・用途と適用 (USES AND APPLICATIONS)

当社製品の主な用途 合成樹脂塗料など

物理化学的特性 (PHYSICAL/CHEMICAL PROPERTIES)

芳香臭を持つ無色透明の液体である。

外観(物理的状态)	液体
色	無色透明
臭気	芳香臭
比重(相対密度)	0.9387 20 °C
融点/沸点	-44 °C / 167.9 °C
可燃性/引火性	引火性の液体(区分3)
引火点	58 °C 密閉式
燃焼または 爆発上下限界	6.9 vol % / 1.8 vol %
自己発火温度	643 °C
蒸気圧	0.224 kPa 25 °C
分子量	116.16
水溶解性	情報なし
オクタノール-水分配係数	LogKow : -0.14
出典・備考	三菱ケミカル(株)発行のSDS 9項 参照

ヒト健康影響 (HEALTH EFFECTS)

皮膚刺激、強い眼刺激、生殖能力または胎児への悪影響のおそれの疑い、臓器(肝臓、血液)の障害のおそれ、呼吸器への刺激のおそれ、眠気またはめまいのおそれがある。

影響評価	結果 (GHS ^{*1} 危険有害性分類)
急性毒性(経口)	区分外 ^{*2}
急性毒性(吸入-気体)	分類対象外 ^{*3}
(吸入-蒸気)	分類できない ^{*4}
(吸入-粉塵/ミスト)	分類できない
急性毒性(経皮)	区分外
皮膚腐食性/刺激性	皮膚刺激(区分2)
眼に対する重篤な損傷 性/刺激性	強い眼刺激(区分2A)
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い(区分2)
特定標的臓器 (単回ばく露)	臓器(肝臓、血液)の障害のおそれ(区分2(肝臓、血液)) 呼吸器への刺激のおそれ、眠気またはめまいのおそれ(区分3(気道刺激))

<p>特定標的臓器 (反復ばく露) 吸引性呼吸器有害性 出典・備考</p>	<p>性、麻酔作用)) 分類できない 分類できない 三菱ケミカル(株)発行のSDS 2, 11項 参照 *1 GHS: Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals。世界的に調和されたルールに従い、化学品を危険有害性の種類と程度により分類するシステム。 *2 区分外: 分類を行うのに十分な情報が得られており、分類を行ってみたいところGHSで規定する危険有害性区分において一番低い区分とする十分な証拠が認められなかった場合。 *3 分類対象外: GHSで定義される物理的性質に該当しないため、当該区分での分類の対象となっていないもの *4 分類できない: 分類の判断を行うためのデータが全く、または分類するに十分な程度に得られなかった場合。</p>
---	---

環境影響 (ENVIRONMENTAL EFFECTS)

生分解しやすく、生物蓄積性は低いと考えられる。

<p>影響評価 水生環境有害性(急性) 水生環境有害性(慢性) 出典・備考</p>	<p>結果(GHS危険有害性分類) 区分外 分類できない 三菱ケミカル(株)発行のSDS 12項 参照</p>
<p>環境運命・動態 環境中の移行性 生分解性 生物蓄積性 PBT/vPvBの結論 出典・備考</p>	<p>結果 水系からの揮発性は低く、土壌への吸着性も高くないと考えられる。 良分解性 生物蓄積性は低いと考えられる。 PBT、vPvBに非該当である。 *PBT: 環境中に残留性し、高い生物蓄積性と強い毒性を有する *vPvB: 環境中に非常に残留性しやすく、非常に高い生物蓄積性を有する 三菱ケミカル(株)発行のSDS 12項 参照</p>

ばく露 (EXPOSURE)

作業者ばく露、環境ばく露が主体となる。

<p>詳細 作業者ばく露</p>	<p>No. 当社製品の主な用途におけるばく露の可能性(ばく露経路) 1-1 製造および使用時は、ばく露の可能性がほとんど存在しない閉鎖系での作業に用いられ、作業者に対してほとんどばく露の可能性がない。もしくは閉鎖系バッチでの合成あるいは調合作業において、メンテナンス、サンプリングおよび装置故障の際等、ばく露の機会のあるバッチおよびその他のプロセスでの作業において、メンテナンス、サンプリング、充填、排出および装置故障の際等に、作業者への経皮・吸入ばく露の可能性がある。専用設備での船舶/大容量コンテナへの or からの物質や調剤の移し替え作業において、塵/蒸気/エアロゾルの発生、流出、装置の清掃等に伴</p>
----------------------	---

		い、作業者への経皮・吸入ばく露の可能性がある。
消費者ばく露	2-1	消費者用途はないため、消費者へのばく露の可能性は極めて低い。
環境ばく露	3-1	産業における物質の製造工程から、産業における調剤の調合工程から、主に大気及び水環境へ放出される可能性がある。また、化学反応で使用される溶剤、塗装の塗布に用いられる溶剤等の成形品の一部にならない加工助剤として産業で使用され、主に大気及び水環境へ多く放出されやすい。また土壌環境へも放出される可能性がある。 但し、当該物質はばく露の可能性のある管理された閉鎖系プロセスで製造されるので、製造時の環境への放出の可能性は極めて低い。また当該物質は常温及び常圧で液体であり、環境へ放出された場合は水系中に分配されると考えられるが、水系中では比較的速やかに分解することが予想される。
注意事項		他の用途におけるばく露の可能性がある場合、推奨するリスク管理措置を参考に適切な措置を実施してください。

推奨するリスク管理措置（RISK MANAGEMENT RECOMMENDATIONS）

吸入や皮膚、目への接触による健康への影響を最小化するために、サンプリングや移し変え作業の際は、吸入経路や経皮経路でのばく露を防止することが必要である。そのために、適切な保護マスク、および当該物質が浸透しない材料の衣類・保護手袋の着用が推奨される。

また、環境生物への影響を最小化するために、漏洩防止策を講じるとともに、定期的な監視や設備の保守点検が推奨される。

詳細	No.	当社リスク評価結果に基づく推奨する管理措置
対作業者ばく露	1-1	サンプリングや移し変え作業の際は、適切な保護マスク、および当該物質が浸透しない材料の衣類・保護手袋を着用する。 作業責任者は、作業者に適切な保護具の選択や正しい使用方法、または作業現場の管理方法などの教育をする。
対消費者ばく露	2-1	なし
対環境ばく露	3-1	適切な排水処理施設、適切な排ガス処理施設を設置する。漏洩防止策を講じ、定期的な排出量の確認、日常管理、取り扱いに注意を払う。
その他取扱注意事項		なし
注意事項		通常での取扱い、緊急時対応、廃棄時、輸送時の管理措置は、三菱ケミカル(株)発行のSDSの4, 5, 6, 7, 8, 13, 14項を参照して下さい。

(注)No.は「ばく露」記載箇所にある、それぞれの「ばく露の可能性」に対する管理措置を記載している。

政府機関のレビュー状況（STATE AGENCY REVIEW）

評価書	レビュー状況
OECD HPV	http://www.chem.unep.ch/irptc/sids/OECDSDS/123422.pdf
NITE 化学物質の初期リスク評価書	該当情報なし
環境省 化学物質の環境リスク初期評価	http://www.env.go.jp/chemi/report/h22-01/pdf/chpt2/2-2-2-43.pdf
REACH	http://apps.echa.europa.eu/registered/registered-sub.aspx

法規制情報／ラベル情報

(REGULATORY INFORMATION / LABELLING INFORMATION)

主な法規制情報

法律	規制状況
国連分類	3
国連番号	UN1148
消防法	危険物 第四類 引火性液体 第二石油類 水溶性液体 危険等級 III
船舶安全法	引火性液体類
毒物及び劇物取締法	非該当
化学物質管理促進法	非該当
航空法	輸送許容物件 引火性液体
その他の法令	大気汚染防止法 有害大気汚染物質 海洋汚染防止法 有害液体物質(Z類物質) 港則法 危険物引火性液体類 道路法 車両の通行の制限

ラベル情報

絵表示またはシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

警告

- ・ 呼吸器への刺激のおそれ
- ・ 眠気やめまいのおそれ
- ・ 引火性の液体および蒸気
- ・ 皮膚刺激
- ・ 強い眼刺激
- ・ 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
- ・ 臓器(肝臓、血液)の障害のおそれ

注意書き

[安全対策]

- ・ 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・ 熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。
- ・ 容器を密閉しておくこと。
- ・ 容器を接地すること／アースを取ること。
- ・ 防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。
- ・ 火花を発生しない工具を使用すること。
- ・ 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- ・ 取り扱い後は手をよく洗うこと。
- ・ 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
- ・ この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
- ・ 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・ 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

[応急処置]

- ・ 皮膚(又は髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
- ・ 吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・ 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・ ばく露またはばく露の懸念がある場合:医師の診断/手当を受けること。
- ・ 気分が悪い時は医師に連絡すること。
- ・ 皮膚刺激が生じた場合:医師の診断/手当を受けること。
- ・ 眼の刺激が続く場合:医師の診断/手当を受けること。
- ・ 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。
- ・ 火災の場合:消火するために適切な消火剤を使用すること。
- ・ 特別な処置が必要である。(詳細は第4項応急措置を参照のこと)

[保管]

- ・ 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- ・ 施錠して保管すること。
- ・ 容換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

[廃棄物]

- ・ 内容物/容器は、国際、国、都道府県、又は市町村の規則に従って廃棄すること。

連絡先 (CONTACT INFORMATION WITHIN COMPANY)

会社名	三菱ケミカル株式会社
住所	東京都千代田区丸の内1-1-1 パレスビル
担当部門・担当者	フェノール・ポリカーボネート事業部
電話番号/FAX番号	03-6748-7128/03-3286-1191

発行・改訂日 (DATE OF ISSUE / REVISION) その他の情報 (ADDITIONAL INFORMATION)

初版: 2017年 4月 26日発行
特記事項:2018年12月27日 第二版発行